

「森は生きている」4

森の木を切らないで地球温暖化をストップしてくれるんだよ！



「地球全体の平均気温があがっている」という気になるニュースを、皆さんも聞いたことがあると思います。地球は20世紀後半になってから少しずつ気温が上がりが続いているのです。これを「地球温暖化現象」と言います。地球の温暖化によって、氷河の氷が溶けたり海面が上昇したり、熱波などの異常気象が起きたりしています。

ではなぜ、「地球温暖化現象」は起きるのでしょうか？

それは「石油」や「石炭」などの「化石燃料」と言われるものを使うことで、空気中に「二酸化炭素」(CO₂)が増えて行くからなのです。

この「二酸化炭素」を吸収してくれるもの、それが「森」です。日本の森は一年間に0.7億トンのCO₂を吸収して(食べて)れています。

「森」という漢字は「木」を三つ書きますが、森のパワーは木の三倍よりずっと多くの力を持っています。それは森が空気中の二酸化炭素を食べるように森の中に取り込み、「炭素」という形で木の中で蓄えてくれるのです。森の中で枯れた木にも、また土の中にも「炭素」があります。森の力は本当に大

きいのです。

アスファルトの道路をつくるために木を切り、人間の住む家やビルを建てるために森を切ってコンクリートの街を作り、私たちのまわりでも森はどんどん少なくなっています。特に問題になっているのは熱帯雨林の木が切られていることです。そのために「REDD プラス」という取り組みがあります。森の木を守り育て、そしてCO2を少なくすることができれば、国際的な資金が得られるというものです。

私たちは、地球の気温を少しでも下げるために、森を大切にしていかなければならないのです。さもないと、沿岸の国や都市はやがてなくなってしまうかもしれないし、生き物たちにとっても、地球に住む場所がなくなってしまうかもしれません。

森を切らないで！森を大切に守りましょう。森は生きているのです。

注1) 「国連気候変動枠組み条約」(UNFCCC) 2016年の「パリ協定」での約束：この条約に加盟(入っている)国は二酸化炭素の排出量(出す量)を大幅に減らすこと

注2) REDD プラス：REDD(Reduction of Emission from Deforestation and forest Degradation)

「途上国における森林現象と森林劣化からの排出削減ならびに森林保全、持続可能な森林管理、森林炭素蓄積の増強」、途上国に対して森林保全を経済的インセンティブを提供することで、森林を伐採するよりも残す方を経済的価値の高いものにしようとする試みです。

(973字)

(2020.12 Written by Mizue SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示・非営利・継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典：「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.